

自己効力感を高める別室登校支援

—振り返り日記を用いて—

教育実践高度化専攻 児童生徒発達支援コース 養護教育実践系

古田 紗己

1. 本実践のねらい

学校内に設置された別室登校(以下:別室)の有効性、および当該児童への「振り返り日記」を用いた自己効力感を高める手立ての検討を行った。

2. 実践方法

別室児童のうち2名を抽出し介入、観察対象とした。心身の健康状態を把握するためQTA30(田研出版株式会社)を用いた。対照群として、2人が本来在籍する学級の児童の平均値を比較した。振り返り日記は、週2回実施した。

3. 結果と考察

当初は別室で個別活動が主であったが、次年度は集団スポーツ等の多角的な展開がみられた。QTA30について、当初2名は「要配慮域」、および「経過観察」であった。介入による5ヶ月間の振り返り日記の実施後の比較では、ともにQTA30での改善傾向は認められなかったが、振り返り日記を通して語彙の変化による質的な変化がみられた。

以上のことから、児童の自己理解を深める支援として振り返り日記の有効性が示唆された。